



館長だより

山形県産業科学館

令和6年5月23日(木)

発行 館長 加藤 智一

熟年パワー

科学の領域からどんどん離れていく私をお許ください。現在当館では、ほぼ毎日ガイドボランティアの皆さんにご活躍いただき、団体利用の方々や説明を希望される個人の皆様の対応にあたっていただいております。本当に頭が下がります。この場を借りてお礼申し上げます。「ありがとうございます。」「これからもよろしくお願ひいたします。」しかるに、開館から20年を超え、高齢化に加え、コロナ禍による外出自粛、人間関係の多様化もあって、実働いただける方の数に限界を感じることもしばしば。そこで近く、正式にボランティア募集を行いたいと思っていますところですよ。

さて、5月19日付の朝日新聞に、こんな見出しを見つけました。「熟年パワー地域に活気」「ボランティア多彩な活動」「お客との触れ合い宝物」なんとタイムリー。記事の内容を一部抜粋すると、内閣府の調査で過去1年にボランティア活動経験があると答えた方17.2%。参加の理由は、60%の方が社会の役に立ちたい35%ほどの方が自己啓発や自らの生長につながるからおっしゃっています。そうです。ボランティアは誰かのために、というきっかけは有りですが、自己犠牲がすべてではないのです。自分の生きがい、成長のために活動するものなのです。



少子高齢化社会をむかえた日本では、様々な分野でボランティアが求められています。当館もその一つです。ところが、同じく内閣府調査では、ボランティアの妨げとなる要因として、45.3%が時間がないとおっしゃる。また40.8%が十分な情報がないとおっしゃる。そこで問題になるのが、どこでボランティア情報をゲットするのか、という点でしょう。詳細

な情報を見れば、やる気になる方も多いのではないのでしょうか。ネット情報に不信感を拭き切れぬご高齢の方も多いとは思いますが、偶然ポスターやチラシを目にする機会は、現代社会において、そうそうあるものではないでしょう。市報やテレビ、ラジオ情報に頼るのではなく、ここはひとつ、スマホから「山形県ボランティア情報」にアクセスいただき、自分の空き時間、スキル、場所に合ったボランティアを見つけてください。まず始めることで、次回への希望、新たな居場所、人との繋がりが生まれ、もしかしたら、かけがえのない生きがいになるかもしれませんよ。

コスパ、タイパ、スペパ、エネパそしてテンパ

最近気になっている言葉があります。何でも縮めて表現する日本人の得意技ではありますが、いちいち調べるのもめんどくさい。どんなメリットがあるのでしょうか。

コスパ(コストパフォーマンス)は費用対効果を示す言葉で、投資したお金に対してどれだけの効果があるかを評価します。タイパ(タイムパフォーマンス)は時間対効果を意味し、投入した時間に対してどれだけの成果が得られるかを考慮します。またスペパ(スペースパフォーマンス)は空間対効果を表す言葉で、限られたスペースを効率的に活用することを重視します。リモートワークの増加などで注目されています。そしてエネパは、エネルギーパフォーマンスの略で、二つの意味合いが考えられます。一つは、文字通り、電気エネルギーなど、「かけたエネルギーに対する効果」を示す場合。もう一つは、経済的な意味合いで、「かけた労力に対する効果」です。

これらの言葉は、効率を重視する現代のビジネス環境で重要な指標となっているようで、「〇〇対効果」的な表現で使われていますが、使い方に応用がきくので、これからも増えてくるでしょうね。そして私はどんどん「テンパ」っていくのです。

